

第2回江川流域づくり支援会議（第二期）議事録

開催日 平成28年5月26日（木曜日）

時 間 9時30分～11時30分

場 所 上尾市文化センター 306

1 開会

2 座長挨拶

3 委員紹介

4 職員紹介

5 議事

（1）江川（上流部）の治水対策について

<説明>

- ・事務局から、資料1、2に基づき説明

<質疑応答>

- ・事業費の算出について教えてほしい。消費税が増税となると事業費も増えるのか。

（事務局回答）

資料に示した事業費は概算額で事業に関する具体的な数字は、今後、詳細を詰めていく。物価上昇や消費税の関係等についても検討の中で対応する。

- ・今までの協議は下流部について重ねられてきたが、事業実施が難しいとの判断で上流部の工事が計画され進められることとなり、支援会議が軽視された感がある。

（事務局回答）

上流部の工事は、学識者あるいは地域の皆様の意見を聞いたうえで平成18年に策定された河川整備計画に基づく整備である。下流部については、提案いただいた現況地盤活用案をどのように具現化していくか、詰めなければならない技術的な問題も多い。一方で上流部に調節池を整備することで下流部の浸水被害の軽減を図ることができる。河川管理者としては地域の安全を早く確保するという使命もあるため、計画に基づき上流部の工事を実施することとした。ご理解をいただきたい。

- ・過去に下流部で行っていた河川を広げて掘り下げるという案は、現在も残っているのか。

（事務局回答）

現在の江川（下流部）の整備計画は、河川を掘削して整備する計画である。しかし、現計画では環境と治水が両立した整備が出来ないというご意見があったため、どのような江川を造っていくか、検討をしている段階である。

- ・上流部の事業は、下流部へどのように影響するか。

(事務局回答)

下流へ流れていた洪水を上流部の調節池でカットすることで下流の浸水被害を軽減する効果がある。現在、調節池の効果を定量的に示せる資料がないが、小学校のプール約 480 杯分の水を溜めることができる容量約 12 万 m³ の調節池の整備を予定している。

- ・上流部の工事について発表された 5 月の新聞記事に対する県民、環境団体からの反対意見などはあったか。

(事務局回答)

県民や環境団体からの反対意見等は特にもっていない。

- ・調節池の堤防は相当強固なものとしないと、決壊の恐れがあるのではないか。

(事務局回答)

上流部に整備予定の調節池は自然の地形を活かしたもので、県の東部地域のように高い堤防により水を溜める調節池ではないため、決壊のリスクは低いと考えている。

- ・調節池整備のために土地の買収が生じるが、地主の意向確認などについて県はどのように考えているか。

(事務局回答)

地元の桶川市にも協力いただきながら説明会等を丁寧に行い、ご理解いただきながら進めていきたい。

- ・調節池底面に生える雑草の管理など、維持管理はどのように考えているか。

(事務局回答)

底面の雑草の管理は平常時の調節池底面の利用に関連するため、地元桶川市と今後調整していきたい。

- ・上流部の工事を進めるのは、河川改修事業の基本にそっていないのではないか。

(事務局回答)

羽生市の中手子林調節池など、埼玉県では上流部での氾濫が頻発しているものの、下流からの改修が到達するのに時間がかかるような河川において、下流とは別に上流部に調節池を造って洪水被害の軽減を計る同様の手法を行っている。

- ・市道 71 号線は桶川市の幹線道路で交通量も多く、桶川西高校の生徒の通学にも利用されているが、台風や集中豪雨で頻繁に冠水し通行止めになり、市民生活に大きな障害になっている。市道 71 号線が冠水しないよう橋の架け替えを何とかしていただきたい。

(事務局回答)

橋の架け替えを検討するために必要な下流部の改修計画がまとまっていない状況である。下流部の計画をまとめるためにも、まずは現況地盤活用案による中流部の水位上昇への対応を、支援会議でご意見を伺いながら検討していきたい。

- ・上流部の工事の予算を下流部などで使う訳にはいかないか。

(事務局回答)

予算の使用は事業計画の範囲内でのみ認められており、今回の対象は調節池と上流部の河川改修だけである。

- ・下流部は現況地盤活用案の方針となっているが、上流部と中流部ではどのような河川整備を行うか方針が決まっているのか。

(事務局回答)

上中流部について、地域の自然環境を活かした川にするかなど、どのような河川整備を行うかは、今後地元の方、市役所とも調整しながら進めていく必要がある。また、開発された地域からは、より多くの雨水が川へ流れ出てくるため、流域における対策についても地元との調整が必要と考えている。

- ・最近、頻繁に豪雨が降る印象があるが、上流部の改修計画の対象降雨はどのような雨か。新聞によると事故のあった昨年7月16日、上流の鴻巣市で観測された降水量は観測史上5位となる159mmであった。被害が発生したときに想定外の大雨ということの無いように充分検証してもらいたい。

(事務局回答)

現在の計画は、全国的な基準にもなっている時間雨量で最大約50mm、3年に一度程度降る確率の雨を対象としている。対象降雨を高めれば安全にはなるが、その分改修工事の費用も増加し進捗が図れない。計画を上回る雨については、水防情報の周知や、安全に逃げてください方策など、人命を優先的に守るといった地域と連携した施策により対応する必要がある。

<意見>

- ・これまでの支援会議では、江川（下流部）の掘削を行うと地下水位が低下して湿地環境が破壊されるなど、その都度いろいろな意見があったため、会議の進展がなかった。今回の支援会議では新たなメンバーで新たな発想の議論をしていきたい。
- ・この会議は、今までの会議を踏まえての会議だという認識を持っている。上流の調節池も第一回支援会議のときに、早急にやるべきことはやる、との合意の上の動きと認識している。

- ・上流部の整備は下流部の整備を進める上でも早くやった方がよい。下流部にくる雨量がどのくらいかということが決まらなると下流部をどうしたら良いのかが決まらない。
- ・江川の谷地形では横断する道路もたくさんあり、これを全部嵩上げするのは現実的に無理ではないか。
- ・第1回会議でまとめられた「スピーディに進める」という視点でスタートラインに立ち、上流部の工事のように具体化するものが出てきている。同じように中流や下流の議論を進めていければと思う。
- ・下流部の浸水範囲の軽減ということで調節池ができるということは賛成する。

(2) 江川(中流部)の整備方針について

<説明>

事務局から、資料3に基づき説明

<質疑応答>

- ・議論の参考とするため、各案についてメリット・デメリットを提示していただきたい。

(事務局回答)

資料3の4ページの案①「高い堤防を造り、洪水処理を行う断面計画」のメリットは河川の幅が狭く済み、用地買収の区間が少なく済むことである。デメリットは、堤防が高くなるため、万一堤防が決壊したときの影響が大きくなる。また、ポンプを整備しないと流域から河川への排水が出来なくなるが、ポンプを整備するには地元市の負担が発生する。

案②「河川区域を広げ、洪水処理を行う断面計画」のメリットは整備に係る費用が少なく済むことである。デメリットは川幅が広がるため、仮に全幅を用地買収として進めると莫大な費用が必要となる。

- ・下流から1.3キロにある市道71号線以北が中流部という認識でよいか。

(事務局回答)

下流から1.3キロ地点付近から調節池を整備する3.9キロ付近までを中流部と呼んでいる。

<意見>

【案①「高い堤防を造り、洪水処理を行う断面計画」への意見】

- ・堤防を造って限定された河川の区域に洪水を収めるようにすると当然水位が上がるため、橋も嵩上げが必要になる。
- ・江川流域は谷地形のため流域に降った雨水(内水)が江川へ向かって集まってくる。江川が堤防で囲まれると堤防で遮られ内水が河川の中に入っていけなくなり、堤防の周囲が水に浸かってしまう。

- ・江川周辺に集まった雨水（内水）はポンプで江川へ排水することとなるが、全てを排水できるポンプを配置できるかという現実的に難しい。
- ・中流部に無理に築堤し橋梁を嵩上げする計画にした場合、莫大な工事費が必要になり、更に事業が進まなくなる可能性がある。
- ・ポンプの維持費も必要になり、築堤によって堤防の周囲に雨水（内水）が溜まってしまうので良い案とは言えない。
- ・大きな規模の降雨による浸水被害は防止できるが、頻度の多い小規模の降雨により、内水が頻繁に溜まってしまわないか。

【案②「河川区域を広げ、洪水処理を行う断面計画」への意見】

- ・用地買収をしたら事業費がかかるので、用地買収しない方法が出来ないか。
- ・大雨の際には、案②のように自然に川へ雨水が流れ込むような洪水処理が出来れば良いと思う。
- ・案①と案②の間に、堤防をあまり上げないで費用も少なく済む適切な折衷案があるのではないか。
- ・案②を主としたような形で、必要最小限の掘削、築堤を行う案が良いのではないか。

【その他意見】

- ・降った雨に対してどのくらいの洪水で水位が上がったのかデータが取られていない。地域からの流出量、調節池を造ったときの影響等、計算結果を基に議論されているが、その検証がされていない。また、下流部の水位や流量などの現地測定をすることで、現況地盤活用案でもお金のかからないで済む方法が見つかるのではないか。
- ・堤防を造って洪水を抑えるか、ある程度の河川の幅をもって内水を入りやすくするか。これが議論のしどころになってくるのではないかと思う。
- ・過去に大きな問題となっていた県道の道路冠水は、道路整備により冠水することが少なくなった。水が溜まりやすいこの地域において、河川の大規模な改修をすることに、どれほどの意味があるのだろうか、と感じている。
- ・この地域の将来のあるべき姿を地元の人を中心に考えて、どういうやり方が良いのか考えていくと、もっと建設的な話となる。
- ・人が住んでいる地域を輪中堤などで守るような案について検討するのもよい。

（事務局回答）

去年の事故があった洪水でどのくらい浸水したか、また、計画の降雨による洪水量でどのくらい浸水するかについて、次回にお示しする。

案①と案②の折衷案的なものはこれから検討となるが、これまでにいただいた意見を集約し、メリット・デメリットを整理した上でお示ししたい。

<座長総括>

中流部の断面計画について、次回の支援会議において引き続き議論を行う。そのために以下の方針に基づき、次回までに事務局で検討を進めること。

- ・資料3の4ページの案②「河川区域を広げ、洪水処理を行う断面計画」を基本とし、案①「高い堤防を造り、洪水処理を行う断面計画」との折衷案を具体的な形で検討する。
- ・検討した各案について、長所と短所を整理する。

なお、本日いただいた意見の整理を事務局にお願いする。

6 閉会